

# 昴学園高等学校再編活性化推進協議会（昴ビジョン協議会）報告書

平成19年3月12日

## 1 はじめに

県教育委員会では、進行する少子化などの社会の変化に対応するため、平成13年、「県立高等学校再編活性化基本計画」を策定し、「県立高等学校の適正規模を、原則として1学年の学級数を8学級以下、3学級以上」とし、「1学年2学級以下の規模を設置のコンセプトの一つとして開校した学校を除き、統廃合も視野に入れた活性化の具体的方策を地域社会とともに検討」していくこととした。平成16年には、「県立高等学校再編活性化第二次実施計画」（平成17年～19年）を策定し、「昴学園高等学校及びあけぼの学園高等学校については、設置後相当の年数を経た今、改めて設置の意義を検証しつつ、今後の在り方について検討」することとした。

昴学園高校は、「生き生きと個性を伸ばす」を教育方針に掲げ、平成7年に1学年2学級の寮をもつ21世紀を担う新しいタイプの総合学科の高校として設立された。全国で唯一の全寮制・総合学科として県内全域から生徒募集をし、集団生活をしながら主体的に自己の進路について考えることのできる教育システムを活用することで、社会の変化に柔軟に対応することができる人材の育成を目指して特色ある教育を実践している。本校は、平成6年度の本木高等学校に続き、県内2校目の総合学科の高校としてスタートしたが、平成18年度現在、総合学科を設置する高校が8校に増えることにより、学科の持つ新鮮さが失われることとなった。さらには少子化、経済的な状況の影響もあり、生徒募集が厳しい状況になってきている。

そこで、平成17年度、新しい昴学園高校の在り方を検討するために、学識経験者、中学校代表、保護者、教育委員会等で組織された「昴ビジョン協議会」を立ち上げ、教育内容の充実やより一層の特色化についての協議を重ねてきた。ここに、当協議会での議論を踏まえ、今後の方向性を記し、まとめとする。

## 2 現状と課題

昴学園高校は、三重県の高校改革のさきがけとして寮をもつ総合学科の高校として開設され、自主・自律の精神の育成や集団生活を通じた思いやりの心の育成等、それまでの高校にはなかった新しい教育機能を遺憾なく発揮し、地域の豊かな自然の中で全国的にも注目される取組を次々に展開してきている。

しかし、高校生活入門講座（体験入学）の参加者数を見ると、平成10年度までは300名を超えていたが、平成13年度以降現在までは130名前後で推移しており、近年減少傾向が続いている。これに連動する形で、志願者数も、平成11年度までは100名を超えていたが、平成13年度以降は85名前後で推移している（資料1）。県内の生徒数の減少という社会情勢の変化とともに、県内における総合学科の増設の中で、昴学園高校の現状及び今後の在り方について、様々な角度から検討する必要がある。

本校の一番の特色は、県内で唯一の全寮制の高校として、開校当初より現在まで県内各地から志願者が集まっていることである。単なる遠隔地生徒を対象とする寮ではなく、原則全寮制というシ

ステムは、県内各地から親元を離れ同世代の友人と生活をともにすることにより、他の学校では学ぶことのできない経験を得ることができる場として、本校の教育活動を支える重要な要素として機能してきた。卒業生アンケート結果を見ると「自主・自律の生活態度を身に付けることができた」

(39.9%)、「友人や他者への思いやりの心を学んだ」(25.8%)、「支え合える友を見つけることができた」(34.3%)、「社会を生きぬく力が備わった」(42.9%)、などの意見が多数寄せられている。また、卒業生ならびに保護者のアンケートにおいても、昴学園高校の魅力のトップに全寮制(卒業生61.1%、保護者77.4%)があげられており、新入生保護者のアンケートからも、本校で身につけさせたい事や大切にしたいことは「自立する力」「集団生活での他者への思いやり」等の意見が多く、寮生活を通じて、社会性や自立心の向上などの人間的な成長への期待が伺える。これらのことから、実際に学校・寮生活を経験すると、本校の施設・設備、教育内容等が充実しており、寮があることにより他校にはないすばらしい教育活動が展開されていると判断できる(資料2)。

しかしながら、近年、本校へ入学を希望する者の中には、昴学園総合学科での学びに興味・関心はあるが、同時に寮生活への不安を口にする生徒や保護者がみられる。寮における子どもの人間関係や子どもの学習状況への不安、そして寮生活をおくることによる経費の問題等から、近くの総合学科高校への進学を選択する傾向にある。しかし卒業生のアンケートからは、「寮生活での全てが印象に残っています。悲しい事、楽しかった事、全てが人生において教訓になっています。」「普通の高校では経験できない寮生活を通じて心が豊かになれた気がする。」「入学前は不安であったが、実際に経験すると昴学園の良さが実感できる。」など、寮生活に対しての満足感や達成感が確認できる(資料3)。

中学校からは、本校の施設・設備の抜きん出た充実度、自主・自律の校風、熱心な指導、進路実現、個々の生徒に応じた教育活動等いずれも高い評価を得ている。これらの声と同時に、「昴学園ならではの教育を」「昴学園高校の強みは?」「全寮制の良さをもっと伸ばしてほしい」等の本校の持つ人格形成の場としての機能を更に充実させて欲しいとの要望が寄せられている。

本校の入試については、中学校の進路指導部会から毎年全員推薦選抜制度の見直しを求める要望が出るなど検討を求める声が多くなってきている。開校以来これまで、小さな変更はあったものの、全員推薦入学を堅持し、基本線は変更を加えずに実施してきた。近年の入学選抜制度の改革の中で多くの高校に推薦選抜や特色化選抜が導入されたことにより各中学校も推薦の在り方を見直す動きも出ており、進路指導についての考え方や体制が変化してきている。その他にも、「受検機会の複数化の視点から制度改革をお願いしたい」「昴学園の特色をより鮮明化する入試を望む」などの声が寄せられている。

進路実績については、これまで総合学科として多様な目的をもった生徒の進路実現を目指し、個の指導の充実にも努めた結果、一定の成果を上げていると判断できるが、さらなる成果を期待する声もある(資料4)。

以上のような現状をふまえ、またこれからの教育は生徒自らの学習が中心であるという視点を持って、次のような課題を柱にこれからの昴学園高校の在り方について検討を深めることとした。

第一に全寮制高校として、寮を活かした教育活動を柱に、育てたい生徒像を明確にし、それを実現するシステムを構築する。

第二に学習系列の魅力化と更なる特色化を図るために、学習系列とカリキュラムを再編する。

第三に新しい入学者選抜制度の実施に伴い、より受験生のニーズや学校の特色に適合した入学者選抜制度に改善する。

第四に昴学園高校の成果を効果的に情報発信するなど生徒募集の方法を刷新する。

### 3 協議会の概要について

#### (1) 寮を活かした学校経営

##### ① 寮生活の意義

昴学園高等学校の特色と強みが全寮制にあることが共通に確認され、寮をどのようにして活かして行くかについて議論を重ねてきた。寮の活かし方を検討する上で、全寮制の意義を再度検証することの必要性が確認され、質問項目や内容の検討を重ね、全卒業生と新生入生（平成18年度入学生）の保護者を対象としたアンケートを実施した。集計結果の分析から、15歳で親元を離れ、3年間の寮生活の中で、生徒は多くのかげがえのない経験を積んでおり、「人間成長の場」として寮が十分機能していることがわかった。寮においては、自立心が向上し、規律の遵守、マナーの修練など社会性が育まれるとともに、他者への思いやりや感謝の心が醸成されるなど、大きな意義があることが再確認された。ある卒業生から、「昴学園での3年間は全てが思い出となっている。今社会人となって、どんな辛く苦しいことがあっても、昴学園での友人が支えてくれる。友人と一つ屋根の下で過ごせたこと、誰もが経験できることではない様々なこと、人と人との“絆”に今、とても感謝しています」という意見があった。協議会では、忍耐力と協調性が涵養されることにより、実社会でもそれが大いに役立っていると考えられるという意見が出された。また、寮内で実践されてきた、生徒の自主運営組織「うらら」による、生活改善の呼びかけや清掃活動などの様々な自主活動の重要性が確認された。さらに、生徒たちがここ宮川を「第二のふるさと」として愛着を持ち、卒業後も訪れることも多いのは、全寮制高校の強みであり、今後も土日に開催される地域の行事に生徒が参加するなど、寮を活かした地域交流の取組の推進について要望が出された。

県の再編活性化計画の中では、「生徒が一定規模の集団の中で社会生活を身につけ、互いに切磋琢磨しながら学ぶことが必要であることから、適性規模を3学級以上としている」とあるが、昴学園においては、全寮制であることにより、他の学校に比べ、集団で過ごす時間が圧倒的に長く、寮をもつ高等学校として十分に社会性を身につける教育が行われていると言える。

##### ② 自律的学習の場としての寮

これからの教育は、自らの学習が中心にあるべきという共通認識で、寮という教育環境を活かしながら、生徒一人ひとりが主体的に、またお互いに学び合う学習習慣を確立し、学習プログラムを立て、計画的に実践するしくみの検討が提言された。討議を通して、そのしく

みを実践することで効果をあげ、自らの夢の自己実現につながるという共通認識を得た。

さらに、キャリア教育という視点から、外部講師を寮に招いた講演会や生徒の成果発表会の開催、生徒同士が学び合う課外授業や補習の実施などについて意見が出された。また、学習室の確保などの施設・設備の充実を図ることの必要性についても話し合われた。

なお、寮の完全個室化については、自分を見つめる空間と時間が保障される反面、同室の生徒同士の密度の濃い触れ合いの場が無くなるなどのデメリットがあり、さらに検討をする必要があるという意見が出され今後の課題とする。

## (2) 教育内容・系列の見直し

### ① 教育内容の見直し

本校は二学期制、単位制、90分授業、少人数教育、習熟度別授業など特色を持った教育システムを実践している。その中で集中力が続かないのではないかと危惧された90分授業について検討を行ったが、生徒たちの反応は学習内容がわかりやすいなど、90分授業に期待する意見が多く、今後も継続することが望ましいと考える。教育内容の検討については、人間力を育てることをベースに、生徒の進路希望をふまえた教育内容の充実や、リーダーシップのとれる生徒の養成などを要望する意見が出された。基礎学力の低下や目的意識の低い生徒が増えている現状で、生徒たちが学習意欲を持って主体的に授業に参加できるように、科目選択の指導の充実、開設科目及び科目選択の方法などを検証することが重要である。

### ② 系列の見直し

本校は総合学科で5系列（国際交流、環境技術、美術工芸、介護福祉、総合スポーツ）を設置している。それぞれの系列は特色ある教育内容を実践しているが、生徒のニーズにより一層適合した教育内容の検討が必要になっている。協議会では、これまでの系列の成果を検証することから始め、系列のネーミングの工夫なども考慮するとともに、統廃合や改編などを含めた今後の系列の在り方を検討課題としている。

### ③ 質の高い教育の推進

生徒一人ひとりの自己実現を図るためには、学習習慣の定着、意欲の向上、個々の学力の定着を図ることが重要である。そのため、学校や寮における補習の充実、施設（寮サテライン室、学校図書館等）の積極的活用、地域の教育力や外部講師の招聘等を行い、個々の生徒の能力開発に努める必要がある。また、協議会での意見を受け、自律的な学習を促すものとして、「夢実現ノート」※1の試行に取り組み、平成19年度から本格実施することとなった。

※1 生徒が、自らの目標を設定し、その実現に向けて日々取り組めるように日記風の体裁をとったもの

## (3) 入学者選抜の在り方

本校は、単に学力面だけでなく人物本位の視点に立ち、これまで100%推薦入学を実施し、多様な生徒の可能性を伸ばしてきた（資料4）。平成20年度から新たに導入される入学者選抜制度の実施に向けて、より実態にそくした選抜方法について検討する必要がある。そのためにも、「昴が目指す生徒像」「昴が育てたい生徒像」を明確にするとともに、寮をもつ昴学園の魅力をアピールしていきたい。

#### (4) 情報発信

##### ① PR方法の刷新

生活入門講座では在校生や卒業生、中学校の進路説明会や出前進路説明会※<sup>2</sup>では、地元中学校出身の在校生や保護者の積極的な活用を行うなど、PR方法についての改善に取り組んでいる。本校の良さを伝える方策については、生徒（卒業生を含む）の生の声によるPRが効果的であることが考えられ、生徒が自ら企画・編集する記録ビデオを作成したり、HPの更新を頻繁にするなどの取組が必要である。

※<sup>2</sup> 平成18年度に夏季県内6箇所、秋季県内2箇所で開催し実施した進路説明会

##### ② 中学生の寮体験

中学生や保護者は、寮生活に対して多くの不安を抱くことが考えられる。その不安を払拭し、寮生活の良さを伝えるためには、夏季休業中などを利用して、寮生活を体験させることも重要である。体験の中での在校生との交流も意義があり、寮生活だけでなく地域の環境も学ばせることでより効果が上がると考えられる。

#### (5) 第二のふるさと作り

##### ① 地域と一体となった教育活動

大台町（旧宮川村）との連携はどこの市町よりも深い。町立保育園の夏祭りや数多くある町の行事への参加、ボランティア活動、インターンシップ、文化・スポーツ活動、総合的な学習の時間での活動、保育園・小学校・中学校との相互協力、本校に対する町からの援助など、地域とともに歩んでいる。創立当初から1年生が地域の家庭で1日ホームステイさせていただく「ワンデーホームステイ」を実施してきた。しかし、受け入れ先の確保が年々難しくなり、現在は休止しているが、地域との連携を強めるためにも復活させることを検討する必要がある。

##### ② 保護者との連携

寮の教育効果をいっそう高めるために、保護者との連携をより深める取組の一環として、保護者の一日寮宿泊体験の検討を進める。このことで、寮の魅力が保護者により理解されると同時に、学校周辺の豊かな自然環境ならびに施設を活用することなどにより、昴学園高校の地域と一体となった教育活動の理解も得られると期待できる。

#### (6) その他

##### ① 教員研修や教員養成の支援

昴学園の特色を活かして、教員研修の場とすることを考えていきたい。昴学園の生徒と一緒に寮で生活することなどを通して、人間的な触れ合いをすることにより生徒理解力の向上が期待できる。また、昴学園の生徒にとっても、他校の先生と触れ合い、話し合いをすることで視野が広まり、より望ましい人間的な成長が期待できる。研修を通して、教員自身の見識も深まり、ひいては三重県の学校教育そのものの改革にもつながるものとする。同様に、教員をめざす大学生等の人材の育成の場として活用することも考えられる。

#### 4 今後の方向性

##### <2年間の検討のまとめ>

- 本校は小規模校ではあるが、寮を活かした優れた教育活動が展開されていることから、今後も県内各地域からの生徒が集う全寮制の高校として、より一層の魅力化を図る。
- 魅力化・活性化の視点として、次の4つの柱についてワーキンググループを設置し、具体的な改革プランを平成19年度の中頃までに策定する。
- 日常的に改善活動を続けつつ、現状の維持が難しい状況が想定される場合には抜本的な改革を行う。

##### <改革プランにおける魅力化・活性化の4つの視点>

###### (1) 寮の教育機能のより一層の充実

- ① 相互に学び合うという寮の自治的・自律的な教育機能の充実及び人格形成や将来設計の場としての寮の教育機能の充実。
  - ・ 自立心を育てるプログラムの工夫
  - ・ 相互学習の場としての寮の在り方の工夫
  - ・ 意欲・関心を持ち自ら学ぶ力を育てる寮の在り方の研究
  - ・ 寮の行事等の自主的運営の推進
  - ・ 地域とのつながりや豊かな自然環境を活かした体験学習等、寮独自の活動の推進
  - ・ 地域の教育力の導入の推進
  - ・ 大学や連携機関などの教育力の導入の推進
  - ・ キャリア教育推進の視点に立った卒業生によるサポート体制の開発

###### (2) 新しい学習ニーズに応える魅力ある教育内容・系列の設置

- ① 進路を見据えた主体的な学びを育むことができる教育システムの開発
  - ・ 進路を見据えた教育内容を充実し、従来の系列の見直しによる、廃止・統合の検討。
  - ・ 個に応じた補習や課外授業の設定
  - ・ 芸術系列での学習における地域とのつながりを活かした学習の仕組づくり
  - ・ 学習内容のより一層の深化や広がりを図るための地域教育機関・大学との連携の推進
  - ・ 豊かな自然環境を活かした問題解決型体験学習の導入
  - ・ 生徒の個性と能力を最大限伸長することを目指した授業改善の取組
- ② 主体的に進路を切り拓くことができる力を育むキャリア教育の推進
  - ・ 進路サポートノートとしての「夢実現ノート」の開発と「夢実現ノート」を用いた継続的なキャリア教育の仕組づくり

- ・ 総合的な学習の時間の再構築を含めた3年間のキャリア教育のシステムづくり

### (3) 新しい昴学園の入学者選抜の在り方の検討

- ① 新しい入試制度の導入に伴う選抜方法の検討
  - ・ 全員推薦入学の検討
  - ・ A〇入試の検討
  - ・ 複数受検体制の導入の是非
  - ・ 国際化の視点からの検討

### (4) 県民や中学生及び保護者に対する情報発信の充実

- ① 寮生活を含め昴学園の生活の全体像を体験するPR活動
  - ・ 長期休業期間を利用した中学生の体験入寮の実施
  - ・ 入門講座における中学生の昴体験講座の充実
  - ・ 生徒による記録ビデオ制作の取組
- ② 卒業生によるPR活動
  - ・ 説明会等における卒業生の活用
- ③ 従来からの広報活動の見直し
  - ・ 出前授業・出前進路説明会などによる広報活動の在り方の工夫
  - ・ 進路説明会等における在校生や保護者の積極的な活用
  - ・ 中学生に向けたパンフレット等の工夫
- ④ 魅力あるHPの作成などの情報発信
  - ・ 在校生や授業の活用
  - ・ マスコミの有効利用
  - ・ シラバスのHPへの掲載
  - ・ 芸術系列等の作品展示発表会等の実施

## 5 まとめ

今後は、本報告書をもとに教職員が主体的に改革に取り組み、外部有識者、三重県教育委員会、中学校などと連携を図りながら、より一層魅力ある学校づくりに努めることを望む。

# 高校生活入門講座参加者人数一覧表

実施年度	入門講座参加中学校	入門講座参加生徒数	受検者数
平成 6 年度	83	420	171
平成 7 年度	90	376	110
平成 8 年度	99	372	102
平成 9 年度	95	376	100
平成10 年度	94	308	109
平成11 年度	88	255	109
平成12 年度	80	229	94
平成13 年度	58	134	81
平成14 年度	72	209	99
平成15 年度	67	183	85
平成16 年度	57	129	87
平成17 年度	59	143	80
平成18 年度	64	151	94

## ◎ 系列別入門講座参加生徒数

平成 6 年度

実施日 10月29日 (土)

系列	男	女	合計
国際交流	25	58	83
環境技術	48	8	56
美術工芸	29	73	102
介護福祉	11	94	105
野外スポーツ	41	22	63
未定	8	3	11
合計	162	258	420

平成 7 年度

実施日 11月3日 (金) 4日 (土)

系列	男	女	合計
国際交流	14	71	85
環境技術	27	3	30
美術工芸	13	64	77
介護福祉	12	107	119
野外スポーツ	29	36	65
合計	95	281	376

平成 8 年度

実施日 11月25日 (金) 26日 (土)

系列	男	女	合計
国際交流	23	50	73
環境技術	17	6	23
美術工芸	18	67	85
介護福祉	12	99	111
野外スポーツ	39	41	80
合計	109	263	372

平成 9 年度

実施日 11月1日 (土) 2日 (日)

系列	男	女	合計
国際交流	12	67	79
環境技術	27	7	34
美術工芸	14	93	107
介護福祉	13	94	107
野外スポーツ	26	23	49
合計	92	284	376

平成10 年度

実施日 10月31日 (土) 11月1日 (日)

系列	男	女	合計
国際交流	11	43	54
環境技術	23	2	25
美術工芸	12	101	113
介護福祉	5	60	65
野外スポーツ	37	14	51
合計	88	220	308

平成11 年度

実施日 10月30日 (土) 31日 (日)

系列	男	女	合計
国際交流	7	28	35
環境技術	9	2	11
美術工芸	8	84	92
介護福祉	16	46	62
野外スポーツ	31	24	55
合計	71	184	255



## 平成12年度

実施日 10月28日(土) 29日(日)

系列	男	女	合計
国際交流	6	25	31
環境技術	15	4	19
美術工芸	9	65	74
介護福祉	3	48	51
野外スポーツ	38	18	54
合計	69	160	229

## 平成13年度

実施日 10月27日(土) 28日(日)

系列	男	女	合計
国際交流	9	8	17
環境技術	11	1	12
美術工芸	6	52	58
介護福祉	3	23	26
野外スポーツ	16	5	21
合計	45	89	134

## 平成14年度

実施日 10月26日(土) 27日(日)

系列	男	女	合計
国際交流	6	17	23
環境技術	7	10	17
美術工芸	7	43	50
介護福祉	9	60	69
総合スポーツ	37	13	50
合計	66	143	209

## 平成15年度

実施日 10月25日(土) 26日(日)

系列	男	女	合計
国際交流	8	9	17
環境技術	16	4	20
美術工芸	7	41	48
介護福祉	11	53	64
総合スポーツ	25	9	34
合計	67	116	183

## 平成16年度

実施日 10月23日(土) 24日(日)

系列	男	女	合計
国際交流	1	4	5
環境技術	10	4	14
美術工芸	5	33	38
介護福祉	8	32	40
総合スポーツ	24	8	32
合計	48	81	129

## 平成17年度

実施日 10月22日(土) 23日(日)

系列	男	女	合計
国際交流	4	16	20
環境技術	4	4	8
美術工芸	3	44	47
介護福祉	9	25	34
総合スポーツ	22	12	34
合計	42	101	143

## 平成18年度

実施日 10月21日(土) 22日(日)

系列	男	女	合計
国際交流	7	10	17
環境技術	15	1	16
美術工芸	8	40	48
介護福祉	14	23	37
総合スポーツ	24	9	33
合計	68	83	151

## 卒業生対象アンケートの集約

アンケート実施日 平成17年11月1日(火)、平成18年1月27日(金)

発送数 643 (平成16年度以前卒業生)、73 (平成17年度卒業生)

回答数 198 (回収率 27.7%)

質問1 あなたは第何期生ですか。

質問2 あなたが主として学んだ系列は何ですか

- ①国際交流系列      ②環境技術系列      ③介護福祉系列      ④美術工芸系列  
⑤総合(野外)スポーツ系列

質問3 昴学園高校で学んだことから今、役に立っているものは何ですか。次の中から

該当する番号を3つ選んで  内にご記入ください。

- ①自立する力      ②集団生活      ③個性を大切にすること      ④各種資格  
⑤忍耐力      ⑥海外の留学経験      ⑦友達づくり      ⑧他者への思いやり  
⑨気持ちよい挨拶      ⑩地域の人々とのつながり      ⑪教科等の学習内容  
⑫系列の専門知識・技能      ⑬ボランティア精神      ⑭規則を守ること  
⑮人権・同和教育の学習(平成18年度卒業生のための質問)  
⑯その他(平成17年度卒業生までは⑮として質問)

## 集計結果

項目	回答数
1(自立する力)	79
2(集団生活)	85
3(個性を大切にすること)	65
4(各種資格)	21
5(忍耐力)	49
6(地域の人々とのつながり)	16
7(友達づくり)	51
8(他者への思いやり)	68
9(海外への短期留学)	9
10(気持ちよい挨拶)	55
11(教科等の学習内容)	3
12(系列の専門知識・技能)	43
13(ボランティア精神)	5
14(規則を守ること)	9
15(人権・同和問題の学習)	1
16(その他)	11

## その他

- ・教師・舎監・ふくやまさん・さぶちゃんのお言葉、うおくにさん、たかまつさん。
- ・自分を見つめること・努力すること。
- ・友だちの大切さ。命の重み。
- ・自分で物事を考え決めること。
- ・自主・自律の精神が身についた。
- ・人権学習、人権LHR。
- ・もう少し規則を厳しくしてもよかったと思う。
- ・環境を大切にすること。
- ・長期留学体験。
- ・人間の本質。
- ・家族に感謝する気持ち。

## 【分析】

昴学園高校で学んだことで役立っているものの上位3つは、集団生活(42.9%)、自立する力(39.9%)、他者への思いやり(34.3%)の順である。

これら3項目の次には、個性を大切にすること(32.8%)、気持ちよい挨拶(27.8%)と続く。個性を大切にすることを除くと、寮生活を通して習得した力が役立っていると考えられる。学校生活の面では、系列の専門知識・技能(21.7%)が第8位、各種資格(10.6%)が第9位となっており、高等学校での学習が変化の激しい実社会において十分に対応しきれていないことを勘案しても、生徒にとって魅力的な系列や適切な教育課程になっているか検証する必要がある。



## 保護者（平成18年度入学生）対象アンケートの集約

アンケート実施日 平成18年4月10日（月）

対象者数 80名 回答数 53件（回収率 66.2%）

質問1 よろしければお名前をご記入ください。

質問2 今の時点でお子様の希望する学習系列は何ですか。

- ①国際交流系列      ②環境技術系列      ③介護福祉系列      ④美術工芸系列  
 ⑤総合スポーツ系列      ⑥入学後に決める

質問3 昴学園高校で身に付けさせたいこと、大切にしたいことは何ですか。次の中から主に

該当する番号を3つ選び番号をご記入ください。

- ①自立（律）する力      ②集団生活      ③個性を大切に伸ばすこと      ④各種資格  
 ⑤忍耐力      ⑥地域の人々とのつながり      ⑦友達づくり      ⑧他者への思いやり  
 ⑨海外への短期留学      ⑩気持ちよい挨拶      ⑪教科等の学習内容  
 ⑫系列の専門知識・技能      ⑬ボランティア精神      ⑭規則を守ること  
 ⑮人権・同和教育の学習  
 ⑯その他

## 集計結果

項目	回答数
1(自立する力)	43
2(集団生活)	21
3(個性を大切にすること)	19
4(各種資格)	5
5(忍耐力)	10
6(地域の人々とのつながり)	0
7(友達づくり)	18
8(他者への思いやり)	18
9(海外への短期留学)	0
10(気持ちよい挨拶)	4
11(教科等の学習内容)	0
12(系列の専門知識・技能)	14
13(ボランティア精神)	1
14(規則を守ること)	5
15(人権・同和問題の学習)	0
16(その他)	1

## その他

- ・ 家族の大切さや愛情、外に出て初めて自分が家族に守られ、支えられているか気がついて、どれほど家族に甘えているか、見方が変わること。

## 【分析】

保護者が、昴学園高校で子どもに身につけさせたい事や大切にしたいことの第1位は、自立する力(81.1%)で、2位以下の集団生活(39.6%)、個性を大切にすること(35.8%)を大きく上回っている。その後、友達づくりと他者への思いやりがそれぞれ同数(34.0%)と続き、学習面で系列の専門的知識・技能(26.4%)が6位でやっと出てくる。保護者は、知識的な成長より寮生活を通して社会性・自立性などの人間的な成長を望んでいることがわかる。

質問4 昴学園高校の魅力は何だとお考えですか。次の中から該当する番号を3つ選んでご記入ください。

- ①全寮制    ②単位制    ③2学期制    ④90分授業    ⑤時間割の自主編成  
 ⑥自主・自律にあふれた自由な校風    ⑦いろいろな学校行事    ⑧豊かな自然環境  
 ⑨全員推薦入学制    ⑩学校の施設・設備    ⑪海外への語学研修    ⑫豊富な選択科目  
 ⑬海外への修学旅行    ⑭少人数による教育    ⑮人権・同和教育    ⑯その他

集計結果

項目	回答数
1(全寮制)	41
2(単位制)	4
3(2学期制)	0
4(90分授業)	2
5(時間割の自主編成)	11
6(自主・自律の精神/自由な校風)	34
7(色々な学校行事)	2
8(豊かな自然環境)	15
9(全員推薦入学制)	10
10(施設設備)	8
11(海外への語学研修)	0
12(豊富な科目選択)	14
13(海外への修学旅行)	0
14(少人数による教育)	18
15(人権・同和教育)	0
16(その他)	0

その他

自由記述なし

【分析】

昴学園高校の魅力についての保護者の考えは、上から順に、全寮制(77.4%)、自主・自律の精神/自由な校風(64.2%)、少人数による教育(34.0%)となっており、その後は豊かな自然環境(28.3%)、豊富な科目選択(26.4%)と続いている。

卒業生を対象のアンケート結果との相違は、子どもたちは、時間割の自主編成を第3位にあげているが、保護者は少人数による教育(卒業生では第5位)をあげている点が、主体者である生徒との現実的認識の差によるものと推測される。

質問5 お子様の進学先として昴学園高校を選ばれた一番の要因は何ですか。

問題6 寮生の保護者の方にお伺いします。寮生活にどのようなことを期待されますか。

問題7 昴学園高校に期待されることをお書きください。

## 進路結果

( )内の数字は過年度生です。

		平成 9	平成 10	平成 11	平成 12	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17
4年制 大学	国公立	4	1	4	4(1)	2	3(1)	1(1)	3(2)	2(2)
	私立	30	16(4)	37(2)	22(4)	19(4)	25(1)	19(1)	10	23(1)
短期大学		6	14	14(1)	4	17	5	6(2)	7	6
専門学校・各種学校		17	20	20	21	20	22	30(1)	28	23
進学待機		5	3	5	5	1	5	2	0	0
留学		0	0	0	1	0	0	1	0	0
計		62	54(4)	80(3)	57(5)	59(4)	60(2)	59(5)	48(2)	54
一般企業		23	25	18	25	20	23	20	26	24
公務員		5	2	1	2	1	0	0	1	0
その他		5	9	1	1	9	5	4	1	1
計		33	36	20	28	30	28	24	28	25

## 過去の主な進路先

## 【大学】

〈国公立〉 富山（教）・弘前（理）・宮城教育（教）・都留文科（文）・広島（文）・三重（教）  
東京都立（法）・金沢美術工芸（美）・愛知県立芸術（芸）・三重県立看護（看）  
愛知県立（外）・沖縄県立芸術（美）・尾道（芸）・広島市立（芸）・岩手（人文）  
宇都宮（国際）・群馬県立女子（文）

〈私立〉 早稲田（教）・慶應義塾（環境情報）・立命館（政・産社・人間）・日本（商・工）  
天理（国際・人）・京都外国語（外）・法政（法）・四日市（経）・関西（法）  
・名城（経）・関西学院（社）・関西外国語（外）・皇學館（コミュニケーション）・社福・文）  
名古屋外語（外）・愛知工業（応化）・日本福祉（社）・第一福祉（社福）・  
大阪芸術（芸）・愛知工科（電子情報）・東京農業（農）・名古屋女子（文）